

働き方や地域の暮らし、アジアの連帯を学び合う

第100回ユニオン学校



開催～

みんなで作るユニオン学校、どなたでも参加できます。運営に力を貸してください。

気候危機・民主主義の危機と労働社会運動

—スウェーデンの『緑の福祉国家・社会』を素材として—

お話 **猿田正機** さん

(ユニオンと連帯する市民の会相談役)

日時：2023年7月28日(金) 18時30分～

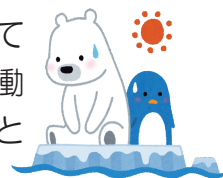
場所：労働会館 第4・5集会室 ※地図裏面
(愛知県名古屋市熱田区沢下町9-3)

主催：ユニオンと連帯する市民の会

連絡先：080-3543-9205(松本) 090-9936-8202(木村)

会場カンパ
500円ほど

木村代表から「学校での語り」のお誘いを受け、そこに書かれていた「千代田総行動から栄総行動へ」というテーマをみた時、労働問題を研究テーマにしようとして、勉強していた頃のことや次々と頭に浮かんできました。それから60年近く経過しましたが、中京大に赴任してからは、労務管理とトヨタ、スウェーデンを三本柱として研究を続けてきたこともあり、日本の労働運動について、人前で語るべきことはほとんどありません。ただ、労働組合運動については、身近に接し続けてきたこともあり、忘れたことはありません。



今回は、せっかく頂いた機会ですので、スウェーデンと比較しつつ、「われわれ市民は、ユニオンと連帯して、どんな社会を望むのか」について、日本の歴史・現状や私の人生・研究史を振り返りつつ、私なりの思いを語ってみたいと思います。